

あとがき

＜編集顧問＞

太田 保世
諏訪 邦夫
堀江 孝至
村山 正博

＜編集委員＞

相澤 久道
石坂 彰敏
和泉 徹
小川 聡
永井 良三
三嶋 理晃

＜編集協力委員＞

赤石 誠
赤柴 恒人
北風 政史
近藤 哲理
中沢 潔

(五十音順)

今回の特集は、呼吸器の様々な分野で活躍されている8人の先生方による呼吸器疾患治療の現状と今後の展望であり、様々なトピックが印象に残った。

気管支喘息では、抗IgE抗体薬であるオマリズマブが通年性抗原に対して陽性を示し、血清中IgEが高値を示す難治性喘息に対する突破口として、その効果が期待される。また、気管支熱形成術は、気管支鏡下に3~10mmの気管支内腔にプローブを接触させてラジオ波で気道平滑筋を焼灼することで気道収縮の軽減をはかる治療で、難治性喘息の画期的治療法となる可能性がある。

特発性肺線維症(IPF)においては、PDGF、TGF- β を介して線維芽細胞の増殖、コラーゲンを抑制するピルフェニドンが注目される。肺活量の低下の抑制などの効果が示され、2008年12月にわが国で認可された。今後の大規模な臨床評価の結果が楽しみである。また、IPFの急性増悪に対するエンドトキシン吸着療法(PMX-DHP)の有益性が報告されている。このメカニズムとして、好中球や、炎症性メディエータであるMMP-9の吸着作用が報告されている。

COPDでは、長期作用型抗コリン薬であるチオトロピウムや、吸入ステロイドと長期作用型 β_2 刺激薬の合剤、去痰薬であるカルボシステインが大規模臨床試験で有用性が実証され、その成果が一流英文雑誌に掲載された点が注目される。また、病変部の気管支を閉鎖するairway valveの挿入など、「気管支鏡を用いた肺容量減量術」が斬新な治療として注目される。

肺癌では、従来非小細胞肺癌と一括されていたものが、EGFR遺伝子変異を持つ腺癌にはEGFR-TKIが、扁平上皮癌にはPEMやVEGF抗体であるベバシズマブが適応とされるなど、癌組織診断の細分化や治療の個別化の重要性がより明確になりつつある。また、PET-CTを駆使した早期の肺癌診断に伴う縮小手術の推進が注目される。

患者の予後を改善させる可能性のある治療戦略が次々と提案されている呼吸器分野は、若い医師にとってより魅力的な分野に発展しつつある。

(三嶋理晃)

呼吸と循環 (第57巻 第6号)

2009年6月15日発行(毎月1回15日発行)

定価 2,730 円(本体 2,600 円 + 税 5%)

2009年、年ぎめ予約購読料 31,800 円
MedicalFinder パーソナルオプション付 41,400 円
(税込み、配送料弊社負担)

E-mail: kotojun@igaku-shoin.co.jp

Web http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/kotojun

発行 株式会社 医学書院

代表者 金原 優

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23

電話 本誌編集室直通 (03) 3817-5703

(担当: 樋川・今田)

販売部直通 (03) 3817-5659・5660

ファクシミリ (03) 3815-7802

振替口座 00170-9-96693 番

印刷所 三美印刷株式会社 電話 (03) 3803-3131

広告申込所 (株) 医薬広告社 電話 (03) 3814-1971

• Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2009, Printed in Japan.

• 本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)医学書院が保有します。

ICLS<株>日本著作出版権管理システム委託出版物

本誌の無断複写は著作権法上の例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に(株)日本著作出版権管理システム(電話 03-3817-5670, FAX03-3815-8199)の許諾を得てください。